

# 2010 労災かわらばん 初春号

Vol.28 発行日／平成22年2月22日 編集／釧路労災病院新聞局

## 医療安全推進週間を開催

医療安全管理者 櫛谷由香里



今から10年前、横浜市大病院で発生した患者取り違え事故を機に、安全な医療提供を目指し、厚生労働省その他関係団体が活動を始めました。そのひとつが毎年11月下旬に実施する「医療安全推進週間」です。昨年は「患者・地域住民との情報共有と患者・地域住民の主体的参加の促進」の主旨をふまえ、当院では患者取り違え防止キャンペーン、医療安全展示、医療安全教室、ボランティア参加による医療安全パトロールを企画しました。特に患者図書室で開講した医療安全教室は、初めての試みでしたが4日間、延べ187名の参加があり、11月26日北海道新聞夕刊の報道をみての参加もあり、この主旨である「患者・地域住民の主体的参加の促進」へ後押しとなりました。参加者は、看護部、リハビリ科、放射線部、薬剤部、検査科、栄養管理部から「安全」をテーマにした講義に、興味深く聞き入り、質問も積極的でした。患者取り違えキャンペーンでは、ポスター効果もあり積極的に名前を名乗ってくれた方もおりました。今後も職員全員で取り組むことはもちろん、患者の方々にも積極的に参加いただけるよう活動を継続していきたいと思っています。

中央検査科 藤井 史郎



平成21年11月24日、27日の4日間に亘り患者図書室で「糖尿病について」という内容で検査基準範囲等についてお話をさせていただきました。各医療職から医療安全に係る話を聞いて欲しいとの依頼を受けました。何を話せば良いのか思案していましたが、検査科の方から「糖尿病について」話をされてはどうですか？とナイス・アドバイスをいただき、資料提供・資料作成など多大なる協力をして下さいました。感謝。

当日は、緊張で頭の中が真っ白。練習通りに話そうとしても上手にできませんでした。2日目以降は患者さんの顔・表情も見られるくらい、余裕もできました。4日間、とても良い体験をさせてもらいありがとうございました。色々な形で人との出会いが生まれました。色んな形での出会いが生まれました。この書面をかりてお礼申し上げます。最後に、自分の声が大き過ぎましたこと、次回があれば課題とします。

放射線部 小林 和宏  
皆さんご存知のように私たち放射線技師は病院の中でX線撮影やCT、MR、RI検査、放射線治療などに携わっています。この中には、人為的なミス以外に、避けられない医療安全上のリスクがいくつかあります。代表的なのがX線撮影時の被曝。患者様には意識されにくいですが、CT、MR検査で用いられる造影剤の副作用。MR検査における体内金属などです。皆さんからの質問の多いのは放射線検査被曝の安全性です。検査にお

る被曝線量は、X線写真ではまったく心配要らない量で、被曝の多いCT検査も容認できる程度の量であるといえます。

CTで使用する造影剤についてですが、副作用の発生は防ぎようがありません。迅速に対処できる体制を充実させるしかないのが現状です。以前に副作用を起こしたことがある場合、アレルギー、喘息、甲状腺機能亢進症、腎機能障害、妊娠中の場合は主治医と事前にご相談ください。より安全に造影検査を受けるために情報が大切です。軽微な副作用は防ぎことも可能です。気になることがあったら確実に主治医、看護師に伝えてください。食事の制限があっても水分も制限されることは多くありません。水分の補給も大切です。

MR検査ですが、検査ができない人がいます。強い磁場による検査です。で、体内で固定している金属が動くことによる危険性、磁石につかない金属でも電流発生による発熱で火傷を負うことがあるからです。体内に異物がある場合、妊娠中である場合、閉所恐怖症である場合は必ず主治医、看護師に伝えてください。以上簡単に放射線部門で役に立つ安全知識でした。

リハビリテーション科 林 宏樹



「転倒予防」というテーマでお話しと簡単な体操実技を行いました。転倒による骨折が原因で立つことが困難になり寝たきり状態が生じ、最終的には命を落とされる方が少なくありません。あまり知られていませんが、実はわが国の死亡原因の第4位、すなわち癌・脳卒中・心臓病の3大疾病に続くのが、骨や筋肉、関節等運動器の障害が原因の寝たきり状態から死亡に至るものです。特に多くを占めるものに転倒による股関節や背骨の骨折があります。と、ちょっと恐ろしい前振りをしつつ患者図書室において10名ほどの患者様たちと一緒に脚の筋力訓練とバランス改善の体操を行いました。スクワット運動や片脚立ちバランス、足の指を開いたり閉じたり等です。普段運動習慣のない中高年の方々には少しきつかったようですが、体操により転倒発生率が1/2程度になるとお話しすると皆さん頑張っていました。参加してくれた方々は「健康」に関心が高く、転倒の恐ろしさ、転倒予防の大切さをよく理解していただき、熱心に体操を覚えてもらえ有意義な時間を持てたと嬉しく思っています。

栄養管理室 秋林 千尋  
栄養管理室から家庭で取り組むことが出来る安全対策として、細菌やウイルスが原因となる食中毒の予防についてお話させて頂きました。国内で最も発生件数が多い細菌による食中毒を起さない為に、食中毒予防の三原則  
菌を「つけない」  
「増やさない」  
「やっつける」殺菌する」の實行が推奨されています。具体的方法として、まず食材や調理品に菌を付けないように調理や食事の際にしっかりと手を洗うことが重要です。その他食材の保管方法、まな板や包丁の正しい調理器具の取り扱い、調理時の注意点（加熱時の食品の温度など）、様々な対策や注意点を紹介させて頂きました。



また、冬季に多発するノロウイルスによる食中毒も食中毒予防の三原則を実行することが重要ですが、「食事を介する他に人から人へ感染する可能性がある」「アルコール消毒などは効果が無く、次亜塩素酸ナトリウム（家庭用の漂白剤に多く使用されています）が有効である」というような、細菌性

の食中毒と異なる特徴があることから、感染予防方法や適正な消毒方法についてもお話させて頂きました。

薬剤部 岩下 尚弘



薬剤部では、正しい薬の飲み方について話をさせて頂きました。お薬を正しく飲むという事は、医師の指示の通りに服用するということが基本となります。指示のとおり服用しないことで副作用が増強したり、十分な効果が得られなくなってしまうお薬もあります。お薬の袋に書いてある用法・用量を確認して、間違いないように服用しましょう。お薬を飲むときは、十分な量の水かぬるま湯で飲んで下さい。お薬が体の中に吸収されるためには、お薬を水に溶かして胃や腸に運ぶ必要があります。水なしでの服用は、薬が溶けないばかりでなく、お薬が食道に引っかかってしまい、潰瘍を起してしまう危険もあるので注意が必要です。（最近では口腔内崩壊錠という、水なしでも服用可能なお薬もあります。）あまり冷たい水の場合お薬が溶けにくくなり、熱いお湯だと酵素製剤などのお薬に変化を起す恐れがあります。また、牛乳やジュースでの服用は、副作用発現や効果の減少の原因になってしまう恐れがあるので、避けるようにして下さい。

飲み方や使い方、保管方法などお薬について何か判らないことがありましたら、薬剤師にご相談下さい。

◎2月2日より婦人科外来が再開しました！場所は1階の⑭、外科の横です